



「森林整備と原木安定供給に関するシンポジウム」が12月16日、馬頭総合福祉センターで開催されました。基調講演では筑波大学の熊崎実名誉教授を講師に迎え、森林バイオマスのエネルギー利用では先進国であるオーストラリアの話がありました。木質チップを効率よく燃焼させて地域への熱供給や発電事業を行い、それらの利益により地域経済が潤い、植林で山林も再生しているそうです。パネルディスカッションでは、大金町長、県林業振興課長、県森林整備課森づくり推進班長、那須町森林組合長などがそれぞれの立場から地域の森林資源の活用方法の提案などがあり、会場の約二百人の皆さんは熱心に聞き入っていました。

森林資源を活用したバイオマス先進地を目指して

「まるごとFITフェア」が12月10日に東京・池袋のサンシャインシティで行われ、特産品の販売や地域のPR等を行いました。FITとは福島（F）・茨城（I）・栃木（T）3県の県産地域を呼ぶ名称で、これまで培ってきた交流・連携をもとに広域交流圏としてのさらなる発展を目指しています。当日は地域内各市町村の特産品の販売やフラダンスショー、ウルトラクイズなどがあって大勢のお客さんでにぎわっていました。那珂川町では、手づくりハム・たまり漬け・菓子類などの特産品を販売したほか、町のキャラクター「なかちゃん」がPRのために参加し、子どもたちに大人気でした。

FIT地域を都心でPR



大声・愛の言葉コンテスト

「まるごとFITフェア」が12月10日に東京・池袋のサンシャインシティで行われ、特産品の販売や地域のPR等を行いました。FITとは福島（F）・茨城（I）・栃木（T）3県の県産地域を呼ぶ名称で、これまで培ってきた交流・連携をもとに広域交流圏としてのさらなる発展を目指しています。当日は地域内各市町村の特産品の販売やフラダンスショー、ウルトラクイズなどがあって大勢のお客さんでにぎわっていました。那珂川町では、手づくりハム・たまり漬け・菓子類などの特産品を販売したほか、町のキャラクター「なかちゃん」がPRのために参加し、子どもたちに大人気でした。

那珂川町「冬の夢花火」

夢まつり冬の部「冬の夢花火」が夢まつり実行委員会の主催で、12月17日、小川総合福祉センター周辺で開催されました。会場には、ミニFM局を開設し、会場周辺に設けられた駐車場に車を止め、暖かい車内でFM放送を聞きながら花火を楽しんでもらおうという試みです。FM放送では、日頃は気恥ずかしくて伝えられない家族への感謝の気持ちや産まれた子どもの健やかな成長を願う思いなど、町内外から募ったメッセージが流されました。そして、それぞれの思いを込めた世界にひとつだけの花火が次々と打ち上げられました。



ミニ上棟式

また、当日行われた優勝賞金一万円を懸けた大声・愛の言葉コンテストでは、川上勇輔君（小川）と木村章太郎君（馬頭）が見事優勝を勝ち取りました。また、当日、同会場で開催された小川暮れ市では、ミニ上棟式やだるま市のほか、よさこい那珂川踊りやまほろば太鼓なども披露され、終日大勢の人出でにぎわいました。実行委員会では「今年は大震災もあって、家族や仲間、地域の絆を再確認した年でしたが、大切な人に素直な気持ちを伝える夢花火が、夏開催のこどもの夢まつりと併せて恒例化してほしい」と、次回開催への思いと新企画としての手ごたえを強くしていました。

第5回那珂川町第九を歌う会 演奏会を開催

町民の融和と交流を図ろうと平成19年3月に発足した「那珂川町第九を歌う会」（古澤實会長）では12月11日、小川総合福祉センターあじさいホールで第5回演奏会を開催しました。同会約90人の老若男女のメンバーのほか、宇都宮高、宇都宮女子高の合唱部や音楽部管弦楽団、オーケストラ部の約110人の生徒、宇都宮市で活動している合唱団のメンバーらが一丸となって、ベートーヴェンの交響曲第九番などを披露しました。



今回で5回目の公演となった「第九を歌う会」。演奏会では、まず最初に特別演奏として、栃木県出身の片爪大輔さんによるフルートの演奏があり、中村真理さんのピアノ伴奏とともに、「カルメン」の主題による華麗な幻想曲などが演奏されました。続いて宇都宮高校音楽部管弦楽団と宇都宮女子高校オーケストラ部合同による「大学祝典序曲」の演奏があり、引き続き、日本の歌として、「見上げてごらん夜の星を」や「ふるさと」などを合唱した後、交響曲第九番「合唱」より第4楽章（ヘーローヴェン作曲）を歌いました。町内外から約350人の大勢の観客が訪れ、出演者には演奏が終わる度に盛大な拍手が送られていました。またアンコールでは、「ふるさと」を合唱し、観客の皆さんと一緒に歌い、会場は一体感に包まれていました。



奏が終わる度に盛大な拍手が送られていました。またアンコールでは、「ふるさと」を合唱し、観客の皆さんと一緒に歌い、会場は一体感に包まれていました。



片爪大輔さんによるフルード演奏

○大変良かった。5回とも聞いていますが、今回が一番素晴らしかったと思います。来年も期待しています。（町内・40代男性）  
○総勢200名余の方々の演奏と歌声がつになり、素晴らしい演奏会でした。今年は大きな地震があり「上を向いて歩こう」の歌声には9ヶ月経った今でも涙が出てしまいました。（町内・60代女性）  
○とても素敵な演奏でした。合唱はもちろんですが、高校生がこんな素晴らしい演奏を聞かせてくれたことに感謝。（町内・30代女性）

観客の皆さんの感想（アンケートの結果より）



アンコールで一緒に歌う観客の皆さん

○ステージで歌ったことがありますが、客席での鑑賞、本当に素晴らしいです。「感動」という言葉だけでは言い表すことができません。曲が進むにつれて終わってしまうのが惜しく感じました。（町内・70代女性）  
○「那須第九を歌う会」から来ました。フルートの演奏、とてもステキでした。アンコール曲「浜辺の歌」は震災にあわれた海辺を思い出し、涙を流してしまいました。ステージにあふれんばかりの演奏者による日本の歌、第九の演奏、素晴らしかったです。鳥肌の立つ思いでした。（町外・60代女性）